

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0371000142		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム「りんご」		
所在地	岩手県陸前高田市高田町字中田69-2 (電話) 0192-53-1877		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団 評価公表課		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	

【情報提供票より】(19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人 非常勤 3人 常勤換算 7.05 人	

(2) 建物概要

建物構造	(木造平屋建) 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	0 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	86 歳	最低	76 歳
		最高	76 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松原クリニック、松原訪問看護ステーション
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人「勝久会」のグループホームとして、平成13年に開所し7年目を迎えたが、今年「りんご」と名を改めた。日本百景高田松原を見渡せる小高い丘陵地に、母体組織の松原苑、更に「りんご」より、一年早く建てられたグループホーム「つばき」に隣接し、両方のホームの中間の空き地を利用しての野菜作りを始め、運営、各種行事で協力しあい、医療法人としての特長を活かした連携と取り組みを行い、「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」をモットーにその人らしさを大切に生活を送ることができるよう支援すると共に、職員相互のチームワークをよりどころに、サービスの質の向上に努めている。また、夜勤では宿直職員が他県での火災事故を教訓に、一時間おきに徹夜で巡回を行なっていることが特筆される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で要改善になった項目のうち、身体拘束については明文化と家族の同意は得られている。栄養バランスについては1ヶ月に1回1日分の献立により栄養士のチェックが行われている。また、家族アンケートについては、様式の作成は進んでいるが実施までには至っていない。運営方針に係る項目については1ヶ月に1回の定例会議で反映する仕組みが作られている。職員の急な休みには対応できるようになっている。地域との交流は祭り見物、郷土芸能の虎舞などで行なわれているが不十分である。前年度の課題はかなり改善されているが、引き続き残された課題に対し取り組みを期待したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) おおむね適切な取り組みが行なわれているが「取り組みを期待したい項目」が5項目あり、重度化に関する事項については体制作りはすでにできており、地域とのつきあい、市町村との連携、運営に対する家族等の意見の反映、馴染みながらのサービスの利用についての4項目と合わせ、「取り組みを期待したい内容」として今回の外部評価で話し合うことができた。</p>	
	重点項目	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームの概要・サービスの提供の状況及び現状についての報告、外部評価について要改善事項の取り組みの状況、避難訓練、地域交流、昨年度より採り入れられた医療連携加算による訪問介護の実態についての報告及び説明がなされた。会議が開かれるようになってからの日数が浅く、事業所への理解に関する話題が中心だったが、要望、意見交換の場では感染症の対策、コムの影響、職員の運転マナーへの要望などが話題となり、それらをホームの運営にどう活かしていくかが注目される。</p>
	重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの内外に苦情相談の窓口を設置しており、職員は家族の面会時に苦情・意見などの聴きとりと、金銭管理面では小遣い帳にサインを頂くようようしている。利用者の暮らしぶりは広報等で、また、健康、ヒヤリハットの状況についてはその都度電話連絡するようしているが、独自のアンケートの実施、更に家族会を立ち上げることにより、職員と家族のきずなを深め、それらを運営に反映させることができるのではないかなど、話し合うことができた。</p>
	重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は併設のグループホームと合同で、地域の祭り見物に出かけたり、小正月には郷土芸能の虎舞が施設を訪れるなど、その他の行事を含め密接に協力し合っているが、民家と離れているため地域にどう密着し連携を深めていくかが大きな課題となっている。とりあえず行政区の町内会に加入して、日常的な活動に参加することが、孤立化から抜け出し地域に密着したグループホームづくりへの近道ではないかなど、話し合いが進められた。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体施設「松原苑」の広い敷地の一角に建てられ、建物・敷地にゆとりがあり、名勝高田松原を一望でき環境的にも恵まれている。理念で謳われている「ゆっくり...」、パンフで示されている「人と自然と地域とのふれあい...」の表現にまさにぴったりの施設である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見えやすいところに掲げ職員に浸透を図っているが、常に話題となっているわけではない。他の事業所との交換研修では「ゆったりしていますね」と褒められたりするが、内部の勉強会ではケアに悩んだ時は「理念に立ち返れ」を合言葉に、その実践に向け取り組みを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は併設のグループホームと同じ場所に建てられており、合同で地域の祭り見物に出かけたり、小正月の虎舞が施設を訪れるなどしているが、住宅地と離れているため、地域との関係をどう構築するかが大きな課題となっている。	○	事業所は高田町の長砂、古泉地区、「りんごの里」米崎町にも近接しており、町内会に加入して日常的な地域の活動に意識的に参加していくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で「取り組みを期待したい内容」とされた項目への取り組み過程、結果については、法人全体の施設運営会議で提示すると共に、地域推進会議において、今年度の外部評価までに課題の改善、検討についての報告がなされており、評価を活かした具体的な改善への取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度から運営している運営推進会議であり、今のところ、概要、サービスの提供及び現状の報告等、事業所への理解が中心となって話し合いが進められた。避難訓練、評価について要望、意見は聞いているが、サービスの向上に結びつくまで至っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員として参加及び指導を頂いているが、それ以外での取り組みは行なわれていない。	○	地域との連携、ショートステイの具現化、施設の(未使用二階部分を含む)有効活用等、抱えている諸問題について市の担当者と率直に話し合いを行ない、指導、助言を受けながら共にサービスの質の向上に積極的に取り組んでいくことが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶり、職員異動は、2ヶ月に1回のホーム便り等で、健康状況・ヒヤリハットはその都度電話で、金銭管理は面会時に小遣い帳にサインを頂くなど、定期的かつ入居者個々の実態に合わせ報告、支援している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	古情相談機関が設置され、ホーム古情窓口担当者が決まっている。外部苦情申立て機関としては、岩手県国民健康保険団体連合会、陸前高田市福祉事務所高齢福祉課の2箇所が設置されている。また、職員は家族の面会時に意見等を聞くよう心がけており、アンケートの様式までは準備しているが、実施してはいない。	○	ホーム便りの中に普段の生活の様子、家族に伝えたい情報を折り込んで、ホームからの情報をこまめに発信していくとともに、家族会を立ち上げることにより、職員と家族の絆を深め、それらを運営に反映させることが可能になってくるなど、話し合う場を設けていくことを望みたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代については、入居者の暮らしぶりや健康状況を含め、家族にきちんと報告がなされており、産休などで休む場合には利用者へ事前の挨拶、復帰後の確認等が行われているが、異動による影響への配慮については、利用者や職員の馴染みの関係が損なわれないよう、上部への働きかけも大切である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	独自の新人研修制度(プリセプターシップ)採用による経験5年以上の職員のアドバイザーと、新人職員に指導、助言を行なう担当者がおり、それぞれ指導に当たっているが、若い人が年長者に指導する場合など、チームワークとの兼ね合いが難しいところもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム協会の定例会及びブロックの定例会に出席し、その内容については内部報告がなされている。法人内のグループホームは他に4箇所あって、相互訪問による研修、各種行事等の活動を通じ、サービスの質を向上させる活発な取り組みが行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	主として母体施設を通じ利用者が紹介されるため、立ち上がりの時期を除き、在宅からの利用は最近はない。職員は入所前に施設に出向き記入シートをもとに生活歴、その他必要な情報を利用者家族から聴き取り、家族には利用する前にホームの施設、暮らしぶりなどを見学してもらい納得した上で決めてもらっているが、利用者については実施出来ずにいる。	○	利用者が施設からグループホームに移るにあたって、環境が変わることに対するストレスを軽減するため、事前の見学を多くするよう心がけていきたい。また、入居時に本人の生活歴や本人・家族の要望等の聴き取りを細やかにし、その後のケアに活かしていけるような取り組みを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用年数の経過と共に高齢化と諸機能の低下が進み、以前に出来たことが出来なくなり、職員間でも気づきのアンバランスが生じ、認知症への対応の難しさが改めて指摘されている。人生の先輩として激動期を乗り越えてきた経験・知識を引き出せるよう、また共に支え合える関係を築くよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	高齢化と機能低下の進行に伴い、開設当初からの利用者については入所時の聴き取りに基づく支援計画では対応できなくなってきており、家族の来訪時にはいろいろ話し合っている。本人が希望しても、住んでいた家が取り壊されていたり、近所の人に会わせたくないなどの家族の要望があったりして難しい面もあるが、可能な限り本人の希望に沿うよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新人を除く職員が利用者をそれぞれ1～2名ずつ分担し、アセスメントシート、日常生活記録から利用者のニーズを把握し、援助目標を立て、具体的なサービス内容を決め、それを担当責任者に点検してもらい実際の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画をもとに日常のケアが行なわれているが、毎日申し送りノートに必要な事項、気づき等を各担当者が記入し、一ヶ月ごとに評価を行ない、見直し事項については担当者が計画担当主任及び家族に相談し、3ヶ月に1回見直しを行なっている。また、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、その都度担当者が関係者と話し合い適切に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望により、隣の母体施設「松原苑」のデイサービスの広い浴場の日常的利用をはじめ、松原クリニック、松原看護ステーションの医師、看護師による24時間連携体制、重度化・看取り介護の指針、入院、介護老人保健施設等との連携と援助など、利用者にとって安心できる包括的支援体制が築かれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のほとんどは系列の松原クリニック、地の森クリニック医師による診療が行なわれているが、1～2名は以前からの主治医の医療を受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所と同時に、すぐにターミナルケア(終末期ケア)の話をするのは難しいため、入居者、家族に対し医療連携体制の指針の中で看取り介護について触れている。看取り委員会の構成メンバーは(クリニック、グループホーム、各部署それぞれの代表)となっており、重度化へ対応できる体制作りは行なっているが、まだ、取り組みの具体例は出ていない。	○	重度化が著しい入居者を、いつまでこの施設で支えていくことができるのか、そのために何を準備していけばいいのか、職員の意識改革をどうすすめたらよいか、家族の意思確認をどうするかなど、具体化に向けての取り組みが急務となっている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの尊厳、プライバシーを損ねないようさりげない声かけ、接遇委員会による啓蒙などを通じ対応しており、個人情報の保護については、面会時の記録も別扱いとして取り組むなど徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や草取りなどを希望する人に対しては、なるべく希望に沿うようにしているが、重度化が進み自分の思いをよく伝えられなくなった人に対しては、何をどうしたいのかよく話を聞き、例示して選択させるなど工夫し支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者全員で、買い物、食事の準備、後始末等に参加するのは困難になってきているが、できる人はそれぞれの役割が決まっています、ごく自然に職員と協力し準備、片付け等に参加している。なお、好みを聞くのは難しくなっているが、会話などから察知して献立に活かすように努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はホームの風呂、デイケアの風呂を好む人に分け、なるべく希望に沿うよう支援しているが、回数、時間等希望通りにいかない場合もある。一週2回を目途に感染症予防と気持ちよく入浴できるよう、1回ごとにお湯を全部入れ替えての入浴支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度、後始末、裁縫、草取り、買い物等、利用者の希望、得意分野について支援しているが、サービスの成果に関する項目の自己評価では必ずしも満足のいく状況ではない。利用者家族とより緊密に情報交換を行ない、適切な援助ができるよう環境を整えて行こうとする姿勢を評価したい。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り外出支援は行なってはいるが、諸機能の低下、天候と体調の見極めなど、一人ひとりの希望による外出支援が困難になってきている状況を示しているが、外出可能な時は数人でもドライブに出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は共用空間からよく見える場所に設置され、出入りはチャイムで確認されるようになっており、日中の観察では戸外に一人で出て行こうとする入居者は見当たらなかった。また、外に出ようとしている入居者に対しては、希望をそっと聞くなど鍵をかけない適切な援助に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	当施設は小高い丘陵地に建てられており、沿岸地区で今後予測される大津波、また、水害等については防災マップから見ても安全地帯に属していると考えられているが、火災・地震等の災害時の対策については母体施設を含め、多数の高齢者が集中している関係から、関連施設内での取り組みだけに止まらず、地域との連携が必要になってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回管理栄養士による栄養バランスのチェックを受けている。また、食事量や水分摂取量をチェック表に記入(昼食時に確認)することにより、利用者の状況を客観的に把握でき、より適切な支援が可能になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くゆったりしていて、「りんご」の様々な絵、庭に咲く花が飾られ季節感をかもし出していた。廊下の中央部分の採光が工夫され、サンルームもあり、明るく温かい雰囲気であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものが多く持ち込まれ、自宅と同様に安心して過ごすことができる雰囲気であった。		